



平成 26 年 12 月 18 日
ストラスブール研究連絡センター

フランス国民教育・高等教育・研究省(MENESR)・国立衛生医学研究所(INSERM)

●2014 年 Inserm 賞

2014 年 12 月 3 日、2014 年 Inserm 賞がコレージュ・ド・フランスで授与された。今年の Inserm 大賞には、Anne Dejean-Assémat 氏 (Inserm 993 ユニット/パスツール研究所) が選ばれ、マリソル・トゥーレーヌ厚生・女性権利大臣、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ 高等教育・研究担当大臣、ジャン＝イヴ・ル・デオ 議会科学技術選択評価局 (Opecst) 長、イヴ・レヴィ Inserm 会長ら立会いの下、授与された。その他の受賞者は以下の通り。

・2014 年名誉賞: William Vainchenker 氏 (Inserm1009 ユニット/ギユスタヴ・ルシー研究所/パリ南第 11 大学)

・2014 年国際賞: Sir Leszek Borysiewicz (英国ケンブリッジ大学)

・2014 年 Opecst-Inserm 賞: Mickaël Tanter (Inserm979 ユニット/CNRS/パリ ESPCI/パリ第 7 大学/パリ第 6 大学)

・2014 年イノベーション賞: Mathieu Ducros (Inserm1128 ユニット/パリーデカルト大学)

: Frédéric De Bock (Inserm661 ユニット/CNRS/モンペリエ第 1・第 2 大学)

・2014 研究賞: Hélène Dollfus (Inserm1112 ユニット/ストラスブール大学)

: Nadine Cerf-Bensussan (Inserm1163 ユニット/パリーデカルト大学)

・INSERM “Prix Inserm 2014 : Découvrez les lauréats” (2014 年 12 月 4 日)

<http://www.inserm.fr/actualites/rubriques/actualites-evenements/prix-inserm-2014-decouvrez-les-lauréats>

・フランス高等教育研究省 “Deux Prix de l'Inserm pour l'excellence de la recherche biomédicale française” (2014 年 12 月 4 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid84407/deux-prix-de-l-inserm-pour-l-excellence-de-la-recherche-biomedicale-francaise.html>

フランス国民教育・高等教育・研究省(MENESR)

●Alim-Louis Benabid 氏、2015 年生命科学ブレイクスルー賞を受賞

グルノーブル・ジョゼフ・フーリエ大学名誉教授でフランス科学アカデミーメンバーの Alim-Louis Benabid 氏が、2015 年生命科学 Breakthrough 賞を受賞した。氏の、パーキンソン病における脳深部刺激療法に関する業績が評価された結果である。これを受けて、ナジャット・ヴァロー＝ベルカセム国民教育・高等教育・研究大臣とジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育・研究担当大臣は、氏を讃えた。

・フランス高等教育研究省“Alim-Louis Benabid, lauréat du 2015 Breakthrough prize in Life Science”(2014 年 11 月 11 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid83687/alim-louis-benabid-laureat-du-2015-breakthrough-prize-in-life-science.html>

●2014 年 Irène Joliot-Curie 賞授与

ナジャット・ヴァロー＝ベルカセム国民教育・高等教育・研究大臣、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育・研究担当大臣、ピエール・ド・ボセ エアバスグループ事務局長は、2014 年 Irène Joliot-Curie 賞を 3 名の受賞者に授与した。受賞内容は以下の通り。

- ・ 2014 年女性研究者賞:Hélène Olivier-Bourbigou 氏(フランス新エネルギー石油研究所部長、均一系触媒作用)
- ・ 若手女性研究者賞:Virginie Orgogozo 氏(CNRS/パリ・ジャック・モノ研究所、ハエの進化の過程で生ずる形質変化に関わる変異)
- ・ 女性企業家賞:Séverine Sigrist 氏(Defymed SAS 社社長・創始者)

・フランス高等教育研究省“Remise du Prix Irène Joliot-Curie 2014 : trois femmes d'exception récompensées”(2014 年 11 月 19 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid83893/remise-du-prix-irene-joliot-curie-2014-trois-femmes-d-exception-recompensees.html>

●フランスへの留学生 OB ネットワーク

2014 年 11 月 26 日、ローラン・ファビウス外務・国際開発大臣とジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育・研究担当大臣は、パリのケ・ドルセーで、フランスで勉強した外国人学生 OB・OG 向けのソーシャルネットワーク francealumni.fr を立ち上げた。フランスでの学業経験者が、学業終了後もフランス、学校、大学、企業等と繋がりを維持できるようにすることが目的。本デジタルプラットフォームは Campus France が実施・活性化させ、在外フランス大使館によって徐々に開始される。2014 年に導入した大使館は、ブラジル、ドイツ、コロンビア、ガボン、日本、ヨルダン、フィリピン、クウェート、トルコ、ベトナムの 10 カ国で、2015 年には他の国でも開始される予定。

・フランス高等教育研究省“Lancement de francealumni.fr”(2014 年 11 月 26 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid84199/lancement-de-francealumni.fr.html>

●フランス国民教育・高等教育・研究省、2014年欧州教育展示会に参加

2014年11月27-30日、欧州教育展示会の際、国民教育・高等教育・研究省は、Canope、Cned、Onisepなどのオペレーターの支援を得て、「中高校生・大学生の就職」と「大学と学校のためのデジタル」の2大テーマでスタンドを開設する。スタンドでは、フランスデジタル大学(FUN)を紹介したり、教員や教員養成学校の代表者等と意見交換する場を設けたり、大学進学予定の高校生を対象としたツールの紹介などを企画している。

・フランス高等教育研究省“Le M.E.N.E.S.R. présent au Salon européen de l'éducation 2014”(2014年11月26日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid84193/le-m.e.n.e.s.r.-present-au-salon-europeen-de-l-education-2012.html>

●新人工衛星打ち上げロケット Ariane 6 の開発決定

2014年12月1-2日、ルクセンブルクで開催された、欧州宇宙機関(ESA)閣議で、新人工衛星打ち上げロケットAriane6の開発を決定した。2020年に最初の打ち上げを行う予定。本決定により、人工衛星打ち上げロケット関連産業における欧州の競争力を示すことにもなると、米国、中国、日本等の「ライバル」の存在も意識している様子が窺える。

また、本閣議では、ESA参加国は、2020年まで国際宇宙ステーションの開発を続行することも決定した。

・フランス高等教育研究省“L'Europe décide de développer un nouveau lanceur : Ariane 6”(2014年12月2日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid84371/l-europe-decide-de-developper-un-nouveau-lanceur-ariane-6.html>

●フランス-チュニジア協力協定を締結

2014年12月1-2日のチュニジア訪問の際、ナジャット・ヴァロー＝ベルカセム国民教育・高等教育・研究大臣は、Tawfik Jelassi チュニジア高等教育研究大臣と会見し、4件の協力協定に署名した。その内の高等教育・研究に関連する3件は以下のとおり。

- ・ 職業教育に関する意向表明書:能力の適応と資格の向上、経済活動の発展、両国間の交流強化を目指す。
- ・ デジタル分野での意向表明書:質の高い、現代的な教育の推進のため、MOOCs等のデジタル教育ツールの作成・実施に関する両国の経験の共有を強化する。
- ・ 大学・研究提携に関する共同宣言:両国間の研究をより一層活性化させるため、両国の研究機関の協調・交流の強化、提携協定の新設、研究・イノベーションに関する共同活動を発展

させる。

・フランス高等教育研究省“Signature d'accords de coopération entre la France et la Tunisie” (2014年12月2日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid84350/signature-d-accords-de-cooperation-entre-l-a-france-et-la-tunisie.html>

●第5回仏独研究協力フォーラムの開催

2014年12月8日、パリの国立自然史博物館で、第5回仏独研究協力フォーラムが開催される。150名近くの仏独の代表者が科学会、経済界、政界から参加する。研究プロジェクトと影響力といった、戦略面での二国間協力の優先事項を決定することが争点となる。本フォーラムは、初回が2002年、以降2005年、2008年、2011年にも開催され、毎回テーマを決めて議論が行われてきた。

・フランス高等教育研究省“5e Forum de la coopération franco-allemande en recherche” (2014年12月5日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid84463/5e-forum-de-la-cooperation-franco-allemande-en-recherche.html>

●カザフスタンとの高等教育提携

2014年12月5-6日、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育・研究担当大臣は、オランダ大統領のカザフスタン訪問に同行し、大学協力の署名に立ち会った。フィオラゾ大臣が Sarinzhipov カザフスタン教育・科学大臣とともに署名した2件の協定は、学位の相互承認に関する協定と大学に関する協力協定であった。また、両国の教育機関間で約20件の協定が締結された。

・フランス高等教育研究省“L'enseignement supérieur, priorité de la coopération avec le Kazakhstan” (2014年12月5日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid84485/l-enseignement-superieur-priorite-de-la-cooperation-avec-le-kazakhstan.html>

フランス国立科学研究センター(CNRS)

●カンボジアとラオスでの人間科学プロジェクト実施のための国際コンソーシアム協定締結

2014年11月4日、CNRS、開発研究所(IRD)、フランス国立東洋言語文化研究所は、Manusastra(サンスクリット語で「人間科学」の意味)プロジェクト実施のための国際コンソーシアム協定を締結した。本プロジェクトは、ラオスとカンボジアにおける人間科学研究と教育の強化を目的としており、カンボジア王立芸術大学(URBA)、ラオス大学(UNL)、フランス極東学院(EFEO)、仏語

圏大学局(AUF)、東南アジアセンター研究所(CASE)の複数の機関と提携している。

・CNRS “Signature d'un accord de consortium international pour la mise en oeuvre du projet Manusastra au Cambodge et au Laos”(2014年11月6日)

<http://www2.cnrs.fr/presse/communiqu/3807.htm>

フランス国立研究機構(ANR)

●France Stratégie、雇用と競争力強化のための税額控除の成果を評価するプロジェクトを公募

雇用と競争力強化のための給付付き税額控除(CICE)は、2012年の訂正財政法に基づいて設けられ、投資・研究・イノベーション・教育・採用・新たな市場調査・環境とエネルギーの推移・運転資金の再建を通して、企業の競争力強化を目指している。これを背景に、France Stratégie(将来戦略監察局)は、本 CICE が企業に与えた効果を評価するプロジェクトの公募を開始した。応募締切は2014年11月28日。

・ANR “France Stratégie lance un appel à projets sur l'évaluation des effets du Crédit d'impôt pour la compétitivité et pour l'emploi”(2014年11月14日)

<http://www.agence-nationale-recherche.fr/informations/actualites/detail/france-strategie-lance-un-appel-a-projets-sur-levaluation-des-effets-du-credit-dimpot-pour-la-competitivite-et-pour-lemploi/>

フランス国立情報学自動制御研究所(INRIA)

●葉序研究が2014年 La Recherche 生物学賞を受賞

2014年1月にNature誌に掲載された葉序研究に関する論文、“Cytokinin signalling inhibitory fields provide robustness to phyllotaxis(サイトカイニンシグナリング阻害領域が葉序に構造安定性を与える)”が、2014年 La Recherche 生物学賞を受賞した。本論文は、Virtual Plants グループ(INRIA/CIRAD/INRA)の複数の研究者を含む、様々な分野の研究者・エンジニアの共著で、責任著者である Teva Vernoux 氏(植物の生殖と生長(RDP)研究所の生物学者)は、共著者らと、パリのケ・ブランリ美術館で本賞を受賞した。

La Recherche 誌は毎年、考古学、天体物理学、生物学、化学、環境学、数学、保健衛生、神経科学、物理学、情報科学、テクノロジー分野の11グループ、および「審査員特別賞」を表彰している。

・INRIA “Des travaux sur la phyllotaxie récompensés par le prix La Recherche 2014 en Biologie”(2014年11月15日)

<http://www.inria.fr/centre/sophia/actualites/travaux-sur-la-phyllotaxie-recompenses>

●Nicholas Ayache 氏、フランス科学アカデミーの新メンバーに選任

2014年11月18日、フランス科学アカデミー総会の際、10名の新メンバーが選任された。そのうちの1名が、Inria 特別クラス研究ディレクターの Nicholas Ayache 氏で、「医学・情報科学」職に就任する。

・INRIA “Nicholas Ayache, nouveau membre de l'Académie des sciences”(2014年11月20日)

<http://www.inria.fr/centre/sophia/actualites/nicholas-ayache-a-l-academie-des-sciences>

●Patrick Gros 氏、Inria グルノーブル-ローヌ=アルプ研究センター長に指名

2014年12月1日より、Patrick Gros 氏(エコール・ポリテック、ENSTA パリ・テック)が Inria グルノーブル-ローヌ=アルプ研究センター長に就任する。氏は、Antoine Petit Inria 会長によって指名され、François Sillion 氏の後任となる。

・INRIA “Patrick Gros est nommé Directeur du Centre de Recherche Inria Grenoble - Rhône-Alpe”(2014年12月1日)

<http://www.inria.fr/centre/grenoble/actualites/patrick-gros-nouveau-directeur-inria-grenoble-rhone-alpes>

フランス各紙

●エコール・サントラル・パリ、中国、インドに次いでモロッコにも進出

2014年10月27日、エコール・サントラル・パリ(ECP)は、モロッコのカサブランカでの新キャンパス創設に着手した。ECP は、これまでも中国とインドにキャンパスを創設しており、国際進出、特に新興国への進出に意欲的である。

特にアフリカは、発展中の地域であり、2100年には人口が現在の4倍の40億人に上り、仏語圏の人口も3倍に増加すると見込まれているだけに、ECPの関心は高い。

ECP が新興国へ進出する背景には、フランスの技術系のエリート教育モデルは、基礎科学から応用科学まで網羅しており、企業との緊密な提携の下に行われるため、新興国では高く評価されていることがある。

現在のところ、これらの海外キャンパスでは、現地の学生を受け入れているが、将来的にはフランス人学生の受け入れも見込まれている。

・Le Monde “Après la Chine et l’Inde, Centrale s’implante au Maroc”(2014年10月30日)

●ピエール-マリー-キュリー大学で就職支援教育導入

2007年の学生の就職に関する自治法に則り、多くの大学で企業研修やフォーラムの開催などの就職支援サービスに取り組んでいる。

パリ ピエール-マリー・キュリー大学(UPMC)では、理系の学部生全員に、就職に備える学業計画を立てるワークショップへの参加を義務付ける大胆なプログラムを導入した。2013年には、1723人の学部1年生が20時間の講義またはワークショップを受講した。2014年は2年生にも拡大され、2015年には3年生も対象になるという。このように、大学で就職支援の単位取得が義務付けられるのは、UPMCが初めてだという。

•Le Monde“ A l’UPMC, les étudiants formés...à l’emploi”(2014年11月6日)